

# 小学校における指導と一体化した評価問題の開発

— 国語科・社会科を事例として —

小原友行・日高悠子・大久保智加

(2010年12月3日受理)

## A Study on the Development of Evaluation Test for the Making Use of Teacher's Guidance in Elementary School: on the Case of Japanese Language and Social Studies

Tomoyuki KOBARA, Yuko HIDAKA and Tomoka OKUBO

**Abstract.** The aim of this paper is to report on the lesson plan and evaluation test for the making use of teacher's guidance to build the abilities of thinking, judgment and expression in the elementary Japanese language and social studies developed by graduate students. The basic idea for development of evaluation test is the following three.

- 1) It is important that the evaluation test is unified the teacher's guidance in the unit lesson plan.
- 2) In the lesson, teacher need to prepare the scene for thinking, judgment and expression by children.
- 3) On the development of evaluation test, it is important to unify the following four evaluation criteriions. That is "interest, will and attitude", "thinking, judgment and expression", "skill" and "knowledge and understanding".

### 1 本研究の目的と方法

本研究は、広島大学大学院教育学研究科博士課程前期における2009年度後期の授業科目「初等教育評価開発セミナー(社会)」の中で開発された、指導に生かす評価問題を報告するものである。特に、活用型・探求型学力といわれている「思考力・判断力・表現力」に着目して、評価問題の開発を行った。開発にあたっては、「思考力・判断力・表現力」の概念規定と指導に生かす評価問題作成の基本的考え方に基づいて、優れた実践と考えられる授業・評価問題を取り上げて分析を行い、それを改善するという方向で開発を行った。

以下では、指導と一体化した評価問題開発の基本的な考え方と、小学校国語科および社会科を事例として開発した評価問題について紹介を行っていきたい。(文責:小原)

### 2 評価問題開発の基本的な考え方

#### (1)「思考力・判断力・表現力」の概念規定

2008(平成20)年3月28日に新しい小学校学習指導要領が告示された。授業改革を求める改訂のポイントとなるキーワードの一つは、「思考力・

判断力・表現力」の育成である。それは、単に知る・わかるだけでなく、その背景を熟考し、それに対する自分なりの意見や考えを持ち、それを表現しながら社会への参加・参画を考えていく力である。

このような改訂の背後にあるのが、改正学校教育法第30条第2項の次の規定であろう。「生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」またその背景には、改正教育基本法第1条の教育の目的、「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた(中略)国民の育成を期して行われなければならない」の規定がある。

では、学校教育で育成することが求められる「思考力・判断力・表現力」とはどのような力であろうか。その概念規定を行うとすれば、それは事象や問題を「読み解く力」と考えることができよう。そのために必要な問いは、次の3つである。



## 2 小学校国語科における活用力を育成する指導と評価の一体化

### (1)優れた実践と評価問題の分析

本研究では、活用力を「テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりする力」と定義し、PISA調査の「活用」に基づいた、活用力を育成する小学校国語科教育の指導と評価の一体化の開発を行っていききたい。

評価問題を作成するにあたって、ここでの「活用力」とは、「テキストを単に「読む」だけではなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりする」力であると定義する。

活用力を育成する評価問題の要素として、以下の2つが含まれるように評価問題を作成した。

- ①テキストに書かれた「情報の取り出し」だけではなく、「理解・評価」（解釈・熟考）の力を問う問題も含んでいること
- ②論述式の問題を含んでいること

評価問題を作成する上で、東広島市立三津小学校で細恵子教諭の「海のいのち」の実践を参考にした。細教諭は、作者が作り上げた作品世界に入って納得するだけではなく、児童が作品を価値づけ、児童の典型化を促す読みの実践を行っている。細実践における児童が作品を価値づける読みは、「テキストを単に「読む」だけではなく、テキストを利用したり、テキストに基づいて自分の意見を論じたりする」ことであり、活用型の読みの指導であると考えたため、細実践を参考にした。

また、評価問題の作成については、PISA調査問題「贈り物に関する問題」を参考にした。この問題は全7問から構成され、選択式と論述式の問題を含んでいる。また、問題パターンは、情報の取り出し、解釈、熟考・評価問題いずれも含んでいる物語文の評価問題であることから、「海のいのち」の評価問題に参考にできると考えた。

細実践「○○と私・ぼく～読書会を開こう「いのち」・「生きる」～『天とくつついた島』『海のいのち』」の概要は、次のとおりである。

- ①学年：第6学年
- ②単元名 ○○と私・ぼく～読書会を開こう「いのち」・「生きる」～『天とくつついた島』『海のいのち』
- ③教材観  
「海のいのち」とは、太一という主人公が、与

吉じいさ、父、クエ、海との関わりの中で、自然との付き合い方を学び、一人前の漁師に成長していく話である。作者である立松独特の自然への考えかたが強くでている作品であり、全ての命が帰っていく海を舞台に、人間と自然のかかわり方を読者に問いかけている作品になっている。また、それに絡めて太一と父の親子の絆にも主眼が置かれている。

太一の変容を中心に物語は展開していくが、そこには作者の考えが色濃く出ている。児童には、作者の考えに対する自分の考えを持ちながら読むことにより、より自分の生き方を深めることができると考えられる。

### ④つけたい力

- ・人物の変容を評価する力  
【読みの観点（変容についての評価）】
- ・自分と重ねて読み、自分の生き方を考える力  
【文学体験（典型化）】

### (2)細恵子実践の特徴と指導の改善点

細教諭の実践の特徴として、①複数の文章や本を比較しながら読む活動が組み込まれている点、②登場人物の変容を評価し自分だったらどうするかを考えさせる活動が組み込まれている点の2点が挙げられる。これらの活動は活用力を育成する指導として適切なものであると考えられる。

しかしながら、細教諭は一般的な評価問題を単元の終りに使用しており、指導内容と評価問題とが一体化されていない。細教諭の指導内容と一体化された評価問題を作成していく必要があると考えられる。

また、作品の価値づけを行うなかで作品の表現にはあまり焦点があてられていない。

そこで、活用力を育成する指導と一体化された評価問題の開発という観点から、次の2点について改善することが考えられる。

- ①登場人物の変容を評価するうえで、なぜ自分がそう考えたのか、その根拠を分かりやすく説明する評価問題を作成する。
- ②作品の表現と主題（読者が考えるその作品の主題）の關係に着目させる。

### (3)指導と一体化した評価問題の開発

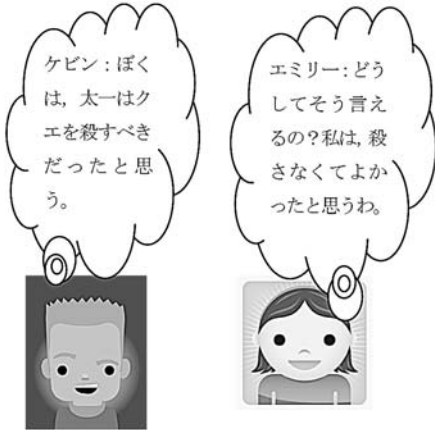
- 1) 課題文：東京書籍第六学年教材「海のいのち」

(立松和平)

2) 問題：課題文「海のいのち」を読んで、以下の問いに答えてください。

※ PISA2006 年度調査「贈り物に関する問題」の改題

海のいのちに関する問1



上の絵は、「海のいのち」を読んだ二人の会話の一部です。

この二人が主張する意見のわけは、それぞれどう言えばいいでしょうか。この物語からそれぞれ根拠をさがして、次に示してください。

ケビン：

エミリー：

○問題設定の趣旨：問1は、太一がクエを殺すかどうかを葛藤しつつも結局クエを殺さなかったという行動を、根拠を探しながら評価させる問題である。

なぜ太一のこの行動を取り上げたのか、その理由は、太一がクエを殺さなかったという行動を取り上げたのは、太一がクエを殺しても納得できる根拠（クエが父親の死の要因であると読み取れる叙述等）と、殺さなかった根拠（作品のテーマ、与吉じいさの教え等）の両方が作品の中で示されているため、児童がそれぞれ異なった考えを、根拠を持って主張することができると思ったからである。

次に、なぜ主人公の行動を評価させたのか、その理由は、主人公の行動を評価させたのは、児童が主

人公の行動を根拠を示しながら評価することによって活用型の読みができると思ったからである。

海のいのちに関する問2

この物語では、太一がクエを殺さなかった理由を課題文のどの部分から考えることができますか。その部分を示しなさい。

○問題設定の趣旨：太一がクエを殺さなかった理由は、テキストには明確には記されていない。殺さなかった理由を暗示している叙述として、「おとう、ここにおられたのですか。また会いに来ますから。」こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。大魚はこの海のいのちだと思えた。」という部分が考えられる。「こう思うことによって、太一は瀬の主を殺さないで済んだのだ。」の「こう」の前にある部分が太一のセリフであるため、太一がどのように思ったのかは、この太一のセリフと後ろにある「大魚はこの海のいのちだと思えた。」の叙述が手掛かりになる。

これらの叙述は太一の心情の変化や作品の主題に深く結び付いている。児童が太一の心情が変化したことを認識しているのか、また作品の主題について考えを持っているのかを確かめるために問2を出題した。また、自分の考えを説明するためには、なぜ自分がそのように考えたのか考える必要があり、自分の考えを認知することができると考えられる。活用型の読みにおいては、自分はなぜそのように考えたのか、その根拠はどこにあるのかを明確にすることが重要であると考えられるため、説明するという出題形式にした。

海のいのちに関する問3

下の文章は、物語の中でクエについて書いているうちの、一部分です。

「ある日父は、夕方になっても帰らなかった。空っぽの父の船が瀬でみつきり、仲間の漁師が引き潮を待ってもぐってみると、父はロープを体に巻いたまま、水中で事切れていた。ロープのもう一方の先には、光る緑色の目をしたクエがいたという。」

「ひとみは黒いしんじゅのようだった。刃物のような歯が並んだ灰色のくちびるは、ふ

くらんでいて大きい。魚がえらをうごかすたび、水が動くのが分かった。岩そのものが魚のようだった。全体は見えないのだが、百五十キロは優にこえているだろう。」

「もう一度もどってきたときも、瀬の主は全く動こうとはせずに太一を見ていた。おだやかな目だった。」

物語の後半に起こったことを考えると、作者はクエを登場させるにあたって、なぜこういう書き方をしたのでしょうか。あなたの考えを述べてください。

○問題設定の趣旨：なぜクエなのか、その理由は、この作品の中でクエは象徴的な存在である。著者はこのクエを登場させるにあたって、読者がクエを海のいのちであると思えるような表現を効果的に用いている。読者が主人公の変容を納得できるように、クエはただの魚としては表現されていない。著者がクエをどのように表現しているかを考えることは、同時に作品の主題にせまることであり、児童が読みを深めることができると考えられるため、作品中のクエの描写とその効果を取り上げた。また、表現と主題を関連させて考えること

は、他の作品を読む際にも有効な方略であり、読みを転化できる活用型の読みであるため、表現の効果を考えさせる問題を設定した。

#### 海のいのちに関する問4

「海のいのち」の最後の文章が、このような文章（□内文章）ので終わるのは適切だと思いますか。最後の文章が物語の内容とどのように関連しているかを示して、あなたの考えを説明してください。

○問題設定の趣旨：なぜ最後の部分なのか、理由は、著者が太一になぜこのような幸せな結末を迎えさせたかと考えると、その理由として、太一がクエを殺さなかったからであると考えられる。それは、「クエを殺さないで済んだのだ」という一文からも読み取ることができる。著者にとって、「海のいのち」であるとも思えるクエを主人公が殺さなかったということは、主題の完結性から考えると重要なことである。最後の部分を考えることによって、児童が作品の主題に迫ることができると考えたため、問4を設定した。

#### 3) 評価問題を組み込んだ単元構成

次に、評価問題を指導過程に組み込んだ単元構成（全16時間）を示せば、表3のようになる。

表3 評価問題を指導過程に組み込んだ単元構成

次	時	学習活動
一	1	○学習の見通しを立てる。
	2	・『天とくつついた島』『海のいのち』の絵本を読み聞かせ、共通するテーマについて話し合う。
二		・「いのち」「生きる」をテーマにした本を読んで読書会を開くという見通しを持ち、『天とくつついた島』『海のいのち』をよむ。
	3	○『天とくつついた島』を読む。
		・意味調べをする。
		・共感できるところやできないところ、その理由を考える。（一人読み）
	4	・一人読みをもとに全体で交流する。
	5	・教材文全体を通して、技師の考え方とおばあさんの考え方を対比する。【読みの観点（対比）】
	6	・技師の変容について評価する。【読みの観点（変容についての評価）】
三	7	・自分だったら知事にどのように報告するかを考える。【文学体験（典型化）】
		○『海のいのち』を読む
	8	・意味調べをする。
	9	・共感できるところ、できないところ、その理由を考え、交流する。
	10	・太一の父と与吉じいさの考え方を対比する。【読みの観点（対比）】
	11	・太一の考え方が変容したか考える。【読みの観点（変容）】【※評価問題2】
	12	・太一の変容を評価する。（一人読み）【読みの観点（変容についての評価）】
	13	
	14	・全体で交流する。
	15	・自分だったらどうするかを考える。【文学体験（典型化）】【※評価問題1】
四	16	・作品の主題と表現の関わりを考える。【※評価問題3, 4】
		○読書会をする。

#### (4)成果と課題

今回の成果として以下の2点が挙げられる。

- ①熟考・評価し、自分の考えを、根拠を明確にして表現する評価問題を作成できたこと。
- ②活用型の読みの指導と一体化させた評価問題を組み込んだ単元を構成できたこと。

特に、従来の評価問題とは異なる、新しい活用型の読みに対応した評価問題を作成できたことは、大きな成果であると考えられる。

しかしながら、今後の課題も多く残った。主な課題としては、評価問題に対する評価のルーブリックが明確に作成できなかったことが挙げられる。

評価問題の作成にあたっては、細教諭のルーブリックを参考にしたが、それだけでは活用型の読みの評価問題を作成することが難しかった。そのため、新たにルーブリックを作成する必要があるが、今回は十分なものを作成することができなかった。今後は活用型の読みに対する評価のルーブリック作成に取り組んでいきたい。(文責：日高)

### 3 小学校社会科における思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価の一体化

#### (1)優れた実践と評価問題の分析

分析対象として、平成18・19年度学力の把握に関する研究指定校事業(社会科)で研究実践された広島市立井口明神小学校木村理恵教諭の実践「言語力を育成する社会科授業～わたしたちの国土と環境 ひろしまの森づくり県民税スタート! の実践を通して～」(安田女子大学教育総合研究所主催の第3回小学校社会科・生活科授業研究会提案資料, 2009年12月5日)を取り上げる。

この研究事業においては学力の把握が目的であることから「思考の結果, 得られた知識」を把握するためにはどのような方法(評価ワークシートの開発・その見取り方)が考えられるのかを明らかにすることを研究の主なねらいとしている。研究対象が「思考の結果, 得られた知識」であることから、「社会的な思考・判断」「社会的事象についての知識・理解」の2観点を主眼に置き、各単元に合わせた具体の評価規準を設定している。

本単元は、なぜ森林に税金を投入しなくてはならないのかということを考えることにより、森林資源が国民生活や産業に与えている役割、その結びつき、意味などを考えることを大きなねらいと

している。

まずであう過程で、国土、広島県土の面積の大半が森林であることを理解するために日本地図を描く活動や地図帳の資料の読み取りをする。そして県民だよりのポスターからなぜ広島県はこのようなポスターが必要なのか、という疑問をもたせ、グラフから広島県の森林は荒れてきていることを読みとる。そしてなぜみんなの税金をかけてまで森林を守らないといけないのかという問いから自分の予想を立てる。

ふかめる過程では、前過程からの流れから自分の予想を図書資料やインターネット等を活用して調べ問題解決する。調べたことやわかったことを根拠にして自分の結論をレポートにまとめる。そして、調べたことをもとに学習問題について話し合いを行う。

ふりかえる過程では、前時で得た生活との結びつきに加え、新たに産業との結びつきを知る。そして最後に今までの過程で習得した見方・考え方を活用して自分の考えを「〇〇税」という形で表現するパフォーマンス活動を行う。

この単元では、ふりかえる過程の12時がパフォーマンス活動となっている。「ひろしまの森づくり県民税」を言い換えると何税と言えるか、前過程までに学習したことをふまえたネーミング、理由が書けているかで評価する。言い換えることで新たに自分なりの考えを表現することができている。実社会とのつながりや結びつきを理解することにもつながる。

パフォーマンス問題は以下の通りである。

学び取ったことを活用して、なぜ、みんなの税金をかけてまで森林を守らなくてはならないのか、その理由が県民に伝わるような税金名を考え、名付けた理由を表現しよう

このように、単元導入部で提示されたポスターと同様のワークシートを用いることで、学習の中での必然性をねらったものとなっている。

前時での話し合いで森林の働きや手入れの仕方に加え、その公益性についても学んだ児童の多くは、最後の評価問題で、森林は生活や産業どちらにとっても必要であることを楽しみながら表現することができるのではないかと考える。児童の例として、「生活と産業を守ろう税」「緑のヒーロー

の力を発揮させよう税」などが出されていた。

既習の知識を活用して、短い言葉（タイトル）で表現する評価問題や理由を書かせて話し合う活動を行うことによって、思考力・判断力・表現力を育成する評価問題の課題を克服できるのではないかと考える。

また、言い換えることで新たに自分なりの考えを表現することができている評価問題になっているところに特徴がある。評価についてはA・B・Cという判断基準があり、Cには、Cを出さないための手立てが記述されているので児童への指導が的確に行える。指導と評価が一体となっているので、子どもの力をより伸ばすための指導が行える。

しかし、目標とパフォーマンス評価の判断基準がずれているのではないかと、評価ワークシートの判断基準（ループリック）が具体的でないという課題が挙げられる。内容と方法の2つの観点に分けて分析すると、内容は評価の作成したマトリックスの縦軸と横軸の取り方など、妥当性があるのかという疑問が残るところに課題がある。

なお、パフォーマンス評価の判断基準は以下の通りである。

内容方法	生活と産業	生活または産業
統合がされている 他の児童の意見等との関連・	A 基準 前時の話し合いで出た事実を関連させ、結論を生かし、森林が人々の生活や産業と密接に関連していることや共有財産であることがわかっている。	B 基準 前時の話し合いで出た事実を関連させたり結論を生かしたりし、森林が人々の生活または産業と密接に関連していることや共有財産であることがわかっている。
統合がされていない 他の児童の意見等との関連・	B 基準 前時の話し合いで出た事実を関連させたり、結論を生かしたりし、森林が人々の生活または産業と密接に関連していることや共有財産であることがわかっている。	C 基準 自分が調べたことや話し合いのメモを想起させたり、補足の説明を個別に行う。

このマトリックスは、内容面と方法面からの視点で評価基準を設定している。また、方法は、ワ

ークシートの記述から評価をおこなう方法であるが、この一つの評価方法だけでは教師の主観に陥る可能性もあるという課題が残る。

## (2)評価問題の改善

以上のような課題から、具体的な評価規準表（ループリック）を作成する必要があるのではないかと考える。そこで、内容的には、評価規準をループリックの形で作成し、より適切な判断基準を作成して改善を図る。方法は、ワークシートを改善し、税金名を名付け、理由を表現させ、改善を図る。以下は、改善を図った評価規準表と評価問題である。

### 1) 評価規準表

①パフォーマンス評価の評価規準：今まで学び取ったことを活用して、なぜ、みんなの税金をかけてまで森林を守らなくてはならないのか、その理由が県民に伝わるような税金名を名付け、理由を表現しているか。

②評価基準表：次のとおりである。

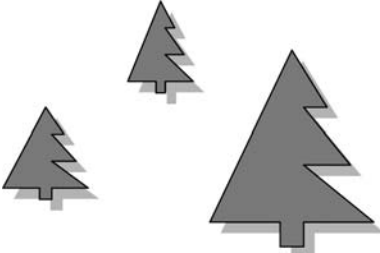
	評価規準B	評価規準A
A 知識・理解	森林の働きを理解し、森林が生活と産業と関連していることを把握することができる。	森林の働きを理解し、森林が人々の生活や産業と密接に関連していること、共有財産であることを踏まえて把握している。
B 思考・判断・表現	今までの授業で調べた事実や他の児童の意見・考えなどを関連させながら、森林の働きについて考え、適切に表現している。	自分の意見だけではなく、今まで調べた事実や他の児童の意見・考えなどを関連させながら、森林の働きや森林の保護育成の必要性について考え、適切に表現している。
C 技能	基礎的な資料を活用して森林の働きについて調べ、調べた事実をまとめ発表することができる。	適切な資料を活用して森林の働きや重要性について調べ、調べた事実をまとめ、伝わりやすい方法で発表することができる。

2) ワークシート

改善したワークシートは、図1の通りである。

県民の人たちに県民税を支払ってもらえるように、今まで学んだことを生かして県民税ポスターを作ろう！

「税」



これは、 \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_ のためのポスターです。  
 この県民税は \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_ に使われます。  
 理由は \_\_\_\_\_  
 \_\_\_\_\_  
 県民のみなさん、ご協力お願いします。

図1 ワークシート

(3)成果と課題

今回の改善では、より具体的な評価規準表（ル

ーブリック）を作成することができた。しかし、評価問題そのものの改善にまでは至っていない。

今回は、ワークシートの記述から評価をおこなうが、この一つの評価方法だけでは教師の主観に陥る可能性もあるという課題も残る。また、パフォーマンス課題を単元の最後に位置づけているが、児童の学習過程に対応した評価としては、課題が残る。これらの改善も含め、今後は、指導と評価が一体となった、授業計画を作成していきたい。

（文責：大久保）

【参考文献】

- 1) 細恵子 (2010) 「文学体験 (典型化体験) を深める文学作品の読み方に関する研究—『読みの観点』と『典型化体験』との相関に着目して」 (広島大学における平成21年度エキスパート研修成果報告会資料, 2010年6月3日)。
- 2) 文部科学省 (2008) 『小学校学習指導要領解説国語編』 東洋館出版。
- 3) 北俊夫 (2005) 「小学校社会科の『資料活用能力』の実態に関する研究」 『岐阜大学教育学部研究報告 教育実践研究』 第7巻。
- 4) 小原友行 (2009) 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン 小学校編』 明治図書。